さくらぐみ第4･5･6学年算数科学習指導案

町 田 市 立　小 山 小 学 校
2026年11月13日（金）5時間目
対象 さくらぐみ第4･5･6学年 10名
指導者 T1 主任教諭 関根 史朗
T2 教 諭 喜多村 董

1 単元名 「さくらクラフト設計事務所 ～バリアフリーな建物を設計しよう～」

2 単元の目標

〇三角形（二等辺･正三角形･直角三角形）や四角形（長方形･正方形･平行四辺形･ひし形･台形）、直方体や立方体の構成要素（辺･頂点･角･面）と性質を理解する。また、定規、コンパス、分度器、デジタルツール（ICT）等を適切に使い、平行･垂直の関係を意識した図形の作図･構成ができる。（知識及び技能）

〇建築物や広場の役割（強度･使いやすさ･デザイン等）と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりできる。また、自分が工夫した設計の理由について、友達に分かりやすく表現したり共有したりできる。（思考力，判断力，表現力等）

〇作図･デジタル操作･アイディア出しなど、自分の得意な関わり方や苦手な作業に気付き、適切な道具や手立てを選んで学習を調整することができる。また、友達の作った設計図や建築モデルの思いや試行錯誤に耳を傾け、自分とは異なる視点や発想を認め合い、肯定的に受け入れることができる。

（学びに向かう力，人間性等）

3 単元の評価規準

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①三角形や四角形、直方体や立方体の構成要素と性質を理解している。 ②定規、コンパス、分度器、デジタルツール等を適切に使い、平行･垂直の関係を意識した図形の作図･構成をしている。	①建築物や広場の役割と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりしている。 ②自分が工夫した設計の理由について、友達に分かりやすく表現したり共有したりしている。	①作図･デジタル操作･アイディア出しなど、自分の得意な関わり方や苦手な作業に気付き、適切な道具や手立てを選んで学習を調整している。 ②友達の作った設計図や建築モデルの思いや試行錯誤に耳を傾け、自分とは異なる視点や発想を認め合い、肯定的に受け入れている。

4 単元構想

（1）児童について（児童観）

本学習グループは、4 年生 1 名、5 年生 4 名、6 年生 5 名で構成されている。児童の学習状況は大きく異なり、個別の学習においては、それぞれに合った 2 年生から 5 年生程度の教材を学んでいる。また、協働的な学びの実現に向けて、自分の考えを伝えたり相手の考えを受け止めたりしながら各教科の学習を進めている。特に6年生の数名は、対話を通して課題解決に向かう力に長けており、他児童のロールモデルとして活躍できている。

算数科の本単元においては、「みんなのための広場を作る」という課題解決に向けて、上級生が下級生を手伝ったり、下級生が上級生の学び方を真似したり、同学年同士で活発に意見交換したりしながら学ぶことが予想される。特別支援学級だからこそできる、ゆとりあるカリキュラムを通して、児童らの算数的知識や技能はもちろん、自己理解･他者受容の力も同時に育むことを目指す。

（2）教材について（学習材観）

本教材は、算数科「B 図形」の内容を、児童の学習状況や実態に照らして整理し、自作したものである。教材の作成に当たっては、以下の2点を重視した。

一つは、探究的に学ぶことのできる学習にしたことである。さくらぐみの児童は現在、総合的な学習の時間において、「共生社会」をテーマとして学習している。そのテーマから派生して、「小山小学校の中庭に『みんなの広場』を作るとしたら」という架空の課題を設定し、算数科としての学習を進められるようにした。児童は、総合的な学習の時間において、視覚障がいのある方から話を聞いたり、地域にある視覚障がい者誘導用ブロック（点字ブロック）を探したりする活動をした。現在は、バリアフリーという観点で身近な環境を見直す学習を進めている。これらの学習経験を活かし、それぞれの興味関心に合った学習課題を設定して探究的に学習できるような教材を作成した。

次に、協働的な学習場面が生まれるようにしたことである。本グループの中には、まだ個別の探究課題を自分で設定することが難しい児童がいる。この時、学習モデルを示すことのできる6年生とグループを組むことで、教え合い・学び合いが発生するようにした。また、学習を進めていくことで、自分の得意なことを活かしたり、苦手なことを互いに補い合ったりする必要のある教材を作成できるようにした。

（3）単元について（単元観）

本グループの児童は、第2学年までの図形領域に関わる内容は習得できていると考えられる。ただ、第3、4学年の内容については、習得状況の個人差が大きい。特に「平行」「垂直」という知識については、未習の児童もいる。

そこで本単元の導入では、まず第3、4学年の図形学習に関わる知識・技能を習得できるようにした。具体的には、身の回りの建築物から図形を見出す数学的活動によって、並行や垂直といった知識を自然と学べるように工夫した。次に、児童がこれまでに学習した平面図形や立体図形の性質や特徴を生かして、「学校の中庭にバリアフリーの建築物を建てる」という学習課題の解決に向けて、探究的に学べるようにした。学習を進めていく過程においては、児童が自分の得意な関わり方や苦手な作業に気付いたり、互いに補い合ったりする学習場面が発生するように工夫した。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①児童が自分の得意な学習方法を選択できるようにする工夫

・学習課題「バリアフリーな建物を設計しよう」の解決に向けた学習を通して、児童は、「僕は話合いをまとめることができる。」「私は定規を使って直線を引くことが得意だ。」といったように、自分のよさに気付いたり進んで長所を生かそうとしたりするだろう。反対に、「手先が不器用だから設計図は友達に任せたい。」「字を書くよりもタイピング入力の方が取り組みやすい。」など、自分の苦手な作業については適切な形で周囲にヘルプサインを出したり代替方法を選択したりできるように指導することを目指す。そこで、授業中の肯定的な言葉かけや即時評価を強調して伝えることで、児童が自分の選択に自信をもって取り組めるようにした。また、活動の様子を画像として記録して振り返り場面で示すことで、自分の学習について視覚的に思い出せるように工夫した。振り返り活動では、「できたこと・分かったこと」という文言で、自分の得意な学習方法に対する気付きも蓄積できるようにした。

【他者受容】

①自分とは異なる視点や発想を認め合う工夫

・児童の実態や人間関係を踏まえて、「4年生1名と6年生2名」「5年生3名」「5年生1名と6年生3名」の計3グループを意図的に編成した。それぞれのグループでは、上級生が下級生を手伝ったり、下級生が上級生の学び方を真似したり、同学年同士で活発に意見交換したりしながら学ぶことが予想される。そのような学習においては、自然と自分とは異なる視点や発想を認め合う必然性が生まれると考えた。また、各グループの学習の様子についてグーグルスライドを使って常に共有できるようにすることで、グループ間の異なる視点や発想に気付けるようにもした。振り返り活動では、「友達の学習のよいところ」という文言で、友達の学習（意見、発想、作業の

様子、学び方など）に対する気付きを蓄積できるようにした。

6 単元の指導と評価の計画 （全25時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 ○方法
1 身の回りのかたちを調べよう	1 2 3 4	・校内にある建築物の「かたち」を撮影し、どんな形がどんな役割を果たしているか考える。 ・図形に関わる語句を整理する。	・三角形（二等辺・正三角形・直角三角形）や四角形（長方形・正方形・平行四辺形・ひし形・台形）、直方体や立方体の構成要素（辺・頂点・角・面）と性質について押さえる。 ・図形の特徴を生かした建築物があることを教える。	・三角形や四角形、直方体や立方体の構成要素と性質を理解している。 ○スライド、発言等
	5	・世の中の建築物にどんな形が生かされているか知る。 ・学習課題「みんなのための広場を作ろう」を設定する。		
2 「みんなのための広場」を作ろう	6 7	・単元の学習の見通しをもつ。 ・自分のグループを知る。 ・グループの広場のテーマを決める。 ・毎時の学び方を知る。	・図形の性質を生かした建築物の設計を目指すことを確認する。 ・学習グループや活動についての見通しをもてるようにする。	・建築物や広場の役割と図形の特徴を関連付けて考えている。 ○発言等
	8 9 10 11 12 13 14 15 本時 16 17	・テーマに合わせて、「バリアフリーな建物」をデザインしたり、ミニチュアを作ったりする。 【予想される学習活動】 ・ブレインストーミング的にアイディアをたくさん出す。 ・話し合う。結論をまとめる。 ・長さを測定する。正しく目盛りを読む。 ・定規、コンパス、分度器等のアナログツールを使用して設計図を描いたりミニチュアを作ったりする。 ・Chromebook、電子黒板等のデジタルツールを使用して設計図を描く。	・定規、コンパス、分度器、デジタルツール（ICT）等を適切に使用し、平行・垂直の関係を意識した図形の作図や構成ができるようにする。 ・建築物や広場の役割（強度・使いやすさ・デザイン等）と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりできるように支援する。	・定規、コンパス、分度器、デジタルツール等を適切に使い、平行・垂直の関係を意識した図形の作図・構成をしている。 ・建築物や広場の役割と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりしている。 ○活動、画像記録、振り返り
3 作った広場を発表しよう	18 19 20	・自分のグループの建築物について、発表したいことをまとめる。	・自分が工夫した設計の理由について、友達に分かりやすく表現したり共有したりできるように指導する。	・自分が工夫した設計の理由について、友達に分かりやすく表現したり共有したりしている。 ○発表の様子、スライド、振り返り
	21 22	・自分のグループの建築物について発表する。 ・友達のグループの建築物の発表を聞く。 ・発表について自分の感想をもつ。		
4 学んだことを振り返ろう	23	・単元を通した学びについて振り返る。	・自分の得意な関わり方や苦手な作業について気付けるように、記録した画像を活用する。	・自分の得意な関わり方や苦手な作業に気付いている。 ・友達の作った設計図や建築モデルの思いや試行錯誤に
	24	・自分の学びについて発表する。 ・友達の学びの発表を聞く。 ・算数の学びについてまとめる。	・友達の作った設計図や建築モデルの思いや試行錯誤に耳を傾け、自分とは異なる視点や発想を	

			認め合い、肯定的に受け入れている姿を見出し、即時評価する。	耳を傾け、自分とは異なる視点や発想を認め合い、肯定的に受け入れている。 〇振り返り
	25	・算数の学びについてたしかめる。	・単元で学んだ図形に関する知識について、Web アプリを活用したテストを行う。	・三角形や四角形、直方体や立方体の構成要素と性質を理解している。 〇テスト、発言等

7 本時の学習（15／25時間）

（1）本時のねらい

建築物や広場の役割（強度・使いやすさ・デザイン等）と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりすることができる。

（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 〇評価(評価方法)
導入	1 グループごとに、本時の学習活動を確認する。	・やるべきことが分からない児童が出ないよう、グループ内でのフォロー体制や個別の支援体制を整えておく。
	「みんなの広場」を設計しよう	
展開	2 グループごとに活動する。自 他 ※グループは、児童の実態や人間関係を踏まえて教師が設定した。 【予想される学習活動】 ※算数科に限らず、他教科での学習経験を生かして、児童が主体的に選択する。 ・工作用紙等を使ってミニチュアを作る。 ・スライドやスプレッドシートに設計図を描く。 ・Canvaを使って画像生成する。 ・中庭に出て、実際のスケールを測る。 など	自己理解① ・振り返りの際に、児童が自分の学びを視覚的に振り返れるよう、自分の得意なことを生かして活動している様子を画像として記録したり、肯定的な即時評価をしたりする。 他者受容① ・グーグルスライドを共有し、各グループの学習の様子や発想などに気付けるようにする。 〇建築物や広場の役割（強度・使いやすさ・デザイン等）と図形の特徴を関連付けて考えたり、平面と立体を組み合わせて表現したりしている。 （制作物・行動・発言 等）
終末	3 本時を振り返り、次時の学習活動を決める。	・「できたこと・わかったこと」「友達の学習のよいところ」について振り返るようにする。言語化が難しい児童は、上級生や友達がフォローしたり、教師が個別に支援したりする。 ・次時の学習活動を自己決定することで、学び続ける力の育成につなげられるようにする。

（3）板書計画

※当日、児童が必要に応じて活用する予定